

19 SAT	11:30 12:00 12:10	14:10 14:25	15:15 15:30	17:20 17:35	18:35	19:35	20:10
--------	-------------------	-------------	-------------	-------------	-------	-------	-------

開場  
開会挨拶

**セヴァンの地球のなおり方 115分**



1992年の地球サミットで、「どうやってなおすかわからないものを、壊し続けるのはやめて」と12歳のセヴァン・スズキは訴えた。19年後の今、母となるセヴァンは、「子どもの未来を守るために、生き方をかえなくては」と語り続ける。地球の悲鳴を肌で感じる日本、フランスの人々を紹介し、経済優先の社会に警鐘を鳴らす。

2010年/フランス 英語・仏語・日本語・日本語字幕  
監督:ジャン=ポール・ジョー

**土 45分**



土は人間はじめ、あらゆる生命体との関わりが深い。泥染めの服、土壁の家、葉……。蜂やツバメの巣も泥。バクテリアの家さえも。土の中で命が生まれ、育ち、朽ちていく。土中の壮大なドラマをカメラが追い、ミクロの世界を視覚化してくれる。もちろん、菌が作る豊かな土壌についても展開する。

2008年/韓国 韓国語・日本語字幕  
ディレクター:イ・ウィホ 制作:EBS(韓国教育テレビ)

**祝の島 105分**



瀬戸内海に浮かぶ山口県祝島。豊饒な海の恵みに支えられ、代々共同体としての結びつきが育まれてきた。1982年、島の4キロ先に原発建設計画が持ち上がる。「海と山さえあれば生きていける。わしらの代で海は売れん」と島人は反対を続ける。千年先の未来を思うとき、私たちは何を選ぶのか。祝島のいのちをつなぐ暮らしを描く。

2010年/日本 監督:額綱あや 制作:ポレポレタイムス

**ブッダの嘆き 56分**



ウラン公害に立ち向かう先住民たち。ウラン鉱山からの放射能汚染により、深刻な被害を受ける人々。やがて、彼らは自らの生きる権利のため立ち上がる。この作品をきっかけに「ブッダの嘆き基金」が立ち上がり、現地の子どもたちのためのシェルターが建設されている。【第8回アース・ビジョン大賞】

1999年/インド 英語・日本語字幕  
監督:ジュリ・プラカッシュ 制作:クリティカ&プリサ

**それでも種をまく 30分**



有機農業は、生命のつながりの中にある。生産者と消費者のつながり、生産者と地域のつながり、そして、循環する生態系とのつながり。しかし、福島第一発電事故とそれによる放射能汚染は、こうしたつながりを暴力的に断ち切った。その痛みの中で、なお「つながり」を取り戻すための種をまこうとしている人びとの姿を追う。

2011年/日本 構成:小池菜採 制作:国際有機農業映画祭運営委員会

20:10	21:30	10:00 10:05	11:10 11:10	11:40	13:00	13:30 13:30	14:56
-------	-------	-------------	-------------	-------	-------	-------------	-------

**シンポジウム 1**

**有機農業を続けられるか?**

農家:大内信一(二本松市)、中村和夫(郡山市)  
古野隆雄(福岡県、「セヴァンの地球のなおり方」)  
販売:南塾幸信((株)自然農法販売協同機構)  
研究者:河田昌東(分子生物学・環境科学)

★原発事故が何を变えたか、それぞれが今直面している問題、今後への思いを登壇者から。「有機農業とは?、有機農業の継続は可能?、続けるための条件は何か?」等、会場とのやりとりも含め、今後への思いを話し合う。

1日目終了

**攻撃にさらされる科学者 60分**



自分のキャリアを棒に振った二人の優れた科学者。彼らは、遺伝子組み換え作物の安全性に疑念を示した結果、バイオ産業からの様々な攻撃を受けてきた。遺伝子組み換え技術の研究のうち、バイオ産業から独立したものは、わずか5%にすぎない。科学研究の自由と私たちの民主主義は、今、危機に瀕している。

2010年/ドイツ 英語・日本語字幕  
監督:ウォルデマー・ハウスチャイルド  
制作:デンクマル・フィルム

**農家から農家へ 24分**



イギリスで有機農業を営み、1996年の商業化以来GM栽培に警鐘を鳴らし続けるマイケル・ハートが、十数年たったアメリカの農家を訪れ、そこで目撃したアメリカの農家が抱えるGM栽培の現状とはどんなものか、雑草と作物に対するGMの影響や、費用対効果と環境への影響などGM作物栽培の実態を報告する。

2011年/英国 英語・日本語字幕  
構成:ベテ・スベラー  
制作:ハート・プロダクション・フィルム

**3分ビデオ 30分**



**「再」それでも種をまく**

**ダート! 80分**



洪水、干ばつ、気象変動、戦争さえ、人間がどのように土を扱ってきたかの結果であると原作者ウィリアム・B・ローガンは言う。『Dirt!』この驚くべき土の生命世界は、政治、経済、農業、環境、生態、健康、教育、芸術、すべてが網の目状に「土」と関わり合っていることを教える。それを理解することによって、私たちは私たちの壊してきたものを治すことができる。

2009年/米国 英語・日本語字幕  
監督:ビル・ベネソン、ジーン・ロソウ  
制作:コモン・グラウンド・メディア

15:10	16:15	16:30	17:45	18:00	19:00	19:30	19:50
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

**暴走する生命 60分**



遺伝子工学の発達と共に1980年代半ばから、植物、動物はもとより人間の遺伝子までも操作する動きが加速してきた。巨大な多国籍企業は、あらゆる分野の遺伝子に注目し、遺伝子に特許を取り製品を開発してきた。種子や生命に特許をとる多国籍企業の「生命支配」に対して農民や消費者・市民は反撃する。

2004年/ドイツ 英語・日本語字幕  
監督:ペルトラム・フェアハーク/ガブリエル・クリューバー  
制作:デンクマル・フィルム

**シンポジウム 2**

**有機農業で生きていく**

農家:古野隆雄(福岡県、合鴨農家)  
天明伸浩(新潟GMイネいらない発起人)  
研究者:河田昌東(分子生物学・環境科学)

★種子や卵という生命の源を遺伝子レベルで改変し、一部の人の手によって、流通、消費まで全一定の枠の中で管理してしまう遺伝子組み換え問題。自然と相反する仕組みの科学技術の導入に、生命あるものをいただく意識を大事に取り組み有機農業ができるか。有機農業で生きることの「鍵」を、参加者と共に探る。

**ミツバチからのメッセージ 57分**



ミツバチの大量死について、ほとんどの日本の養蜂家たちは新農業ネオニコチノイドが原因だと確信している。調べれば調べるほど恐ろしい農業で、ミツバチが減少するだけでなく、農作物や果物などもできなくなってしまう。しかも虫だけでなく、人体、特に子どもにも大きな影響があることがわかってきた。

2010年/日本 構成・撮影・編集:岩崎充利

**解説**

**メッセージを聴く**

田坂興亜(国際農業監視ネットワーク)  
久志富士男(長崎・日本ミツバチ研究者)

★ミツバチの大量死が示すメッセージとは。原因とされる新しい農業・ネオニコチノイドは、使用禁止となった国もある。田坂さんが非常に問題のあるネオニコチノイドについて解説。また、ミツバチの研究者久志さんは、ミツバチの働き、優秀なミツバチがいなくなるということは?と、大量死の影響による農業との共生が崩れること、ミツバチの働きの重要性を解説。

**わたしの農業体験 16分**



山形県高島町の渡部さん夫妻は、年間を通して様々な学生の農業体験を受け入れている。田植え、合鴨農法やかぼちゃの苗植え、草取りを体験する。昔ながらの循環型農業を学び、自然環境や食べ物の大切さを知る。渡部さん夫妻と学生達のインタビューを交えながら、四季を通じた農業体験の様子を伝える。

2009年/日本 構成:四宮鉄男  
プロデューサー:福岡順子 脚本・演出:四宮鉄男  
制作:桜映画社

開会挨拶